

中国人学生が書いた「留学志望書」から見た中国式 考え方： 厦門大学嘉庚学院日本語学部の学生を 分析対象として

著者	？ 玲
雑誌名	平安女学院大学研究年報
号	17
ページ	70-78
発行年	2017-03-31
URL	http://id.nii.ac.jp/1475/00002299/

中国人学生が書いた「留学志望書」から見た中国式考え方

— 厦門大学嘉庚学院日本語学部の学生を分析対象として —

鄢 玲*

1. はじめに

第二言語習得における母語の影響は「言語移転」もしくは「言語間における影響」と呼ばれている。移転は、「正の移転」と「負の移転」に区分される。「負の移転」は「干渉」とも呼ばれ、母語が第二言語の習得に悪い方向に働き、習得を遅延させる場合が多いと考えられている¹⁾。これまで、母語による「負の移転」は、主に文字・語彙の誤用についての研究（張曉杰 2014²⁾、方愛萍 2013³⁾）、あるいは文法についての研究（野崎まり・岩崎裕久美 2013⁴⁾）、または言語構造や言語使用の側面などについての研究（桜井明治 1986⁵⁾）など、言葉そのものについて幅広く検証されている。しかし、教育現場に立つ教育者は、日本語学習者が書いた作文の中に出る文字・語彙の混同、文法の違い、意味の誤解など、さまざまな「間違い」を、根気よく指導すれば「正しい」語句に訂正することが可能だが、このような明らかな「間違い」ではないとしても、日本人から見て違和感のある表現がしばしば見られて、訂正しようとしても手のつけようがないとすることがある。これは表現上の問題ではなく、書いた者の考え方に関わりがあると考えべきだろう。つまり、母語による「負の移転」は文字・語彙、文法、言語構造などのほか、「中国人の特徴的な考え方による影響」は無視できない。しかし、これについて現段階では、「日本的考え方の養成が大事だ」（潘貴民・田少郁 2008⁶⁾）とか「中国式考え方による影響がある」（王秋菊・石晶・多田敬司 2002⁷⁾）という漠然とした指摘があるぐらいで、具体的な調査や分析などはほとんど行われていない。

そこで本稿では、日本語学習者が書いた作文の中にどのように「中国式考え方」が表れるのかを調査した。作文のサンプルとして厦門大学嘉庚学院日本語学部の学生が書いた「留学志望書（作文）」を用いた。その中で目立って「違和感」のある表現を抽出し、それらの表現にはどのような中国式考え方が影響しているのか、また、なぜこのような表現を使うに至ったのかについて考察した。

2. 調査の概要

2.1 調査対象

調査対象は筆者が勤めている厦門大学嘉庚学院日本語学部の 2015 年度と 2016 年度の二年生で、合わせて 134 人が書いた「留学志望書（作文）」である。学生は全員大学に入ってから日本語を勉強し始め、調査が実施された時点では、約 300 時間の日本語教育を受けている。JLPT 日本語能力試験で評価すると、およそ N3 レベルである。

2.2 調査手順

授業で使用した教材は『基礎日語 写作教程 1』⁸⁾で、調査手順としては、まず「志望理由書」のモデル文を学生に学習させ、モデル文の要点や大切なところを確認する。それから自己紹介文や志望理由書を書くために必要な表現を学習させ、さらに書物やインターネットを通して自己紹介や志望理

*：中国厦門大学嘉庚学院日本語科

由、志望動機など自分をアピールする文章を見つける「調べ学習」をさせる。これらの準備作業の所要時間は135分間である。その上で、「あなたは3年生になったら、日本の協定校へ半年間の短期留学をしたいと考えています。志望理由書を400字以内で書いてください。」というタイトルの作文を書かせた。今回の調査はこうして書かせた作文を対象に分析している。

3. 「留学志望書」の分析結果

回収した作文は134人分で、回収率は100%であった。調査結果として、(1) ほとんどすべての学生の作文で、中国식考え方が見られる。(2) 中国식考え方は主に以下の二点に反映されている。なお、語彙・文法などの母語による影響も反映するため、下に取り上げた例文は正しい日本語に直していない。

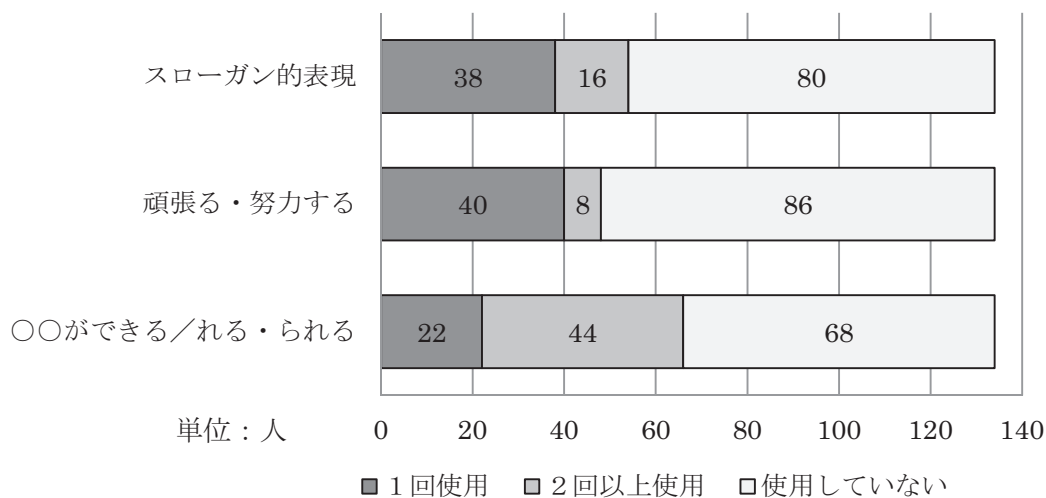


図1 中国식考え方が反映された表現の使用人数

3.1 「申請理由」で「留学を通して、〇〇ができる」という表現が多数見られること。

「〇〇ができる」を使った学生が134人中、1回使った学生は22人、2回以上使った学生は44人、合わせて66人がいて、全体の49%を占めた。具体的には下のように表現される。

(1) 留学を通して、日本語が上手になれる。

- ① 日本へ行ったら日本語のレベルが上がると思います。
- ② 地元の人々と交流して、日本語能力も上げられると思います。
- ③ 半年間の留学時に、もともと言語能力をの不足を克服することができます。
- ④ 日本で日本語を使用するの環境を住んで、発音になまりがないの日本語を聞いたり、日本人と交流したり、聞き取り能力と口語能力が大いに向上することができます。
- ⑤ 自分は日本語を勉強が出来るし、苦しみの中で自分を鍛えます。日本へ来たら、きっと日本語はすぐ上手です。

(2) 留学を通して、視野を広め、生活能力が鍛えられる。

- ① 半年の短期留学の意味は日本の生活を体験して、見聞を広めると思っています。
- ② 日本へ行きになるなら、独り立ちして生活の能力はあります。
- ③ 留学は見聞を増し視野を広め、独立して生活する能力を向上させます。
- ④ 私は日本の伝統文化風土人情を体験できます。また、視野を広げます。

- ⑤日本で毎日日本人と交流する。視野を広げ、自分を充実にし、日本語をよく勉強するにもいいです。

(3) 留学を通して、日本文化を知る・理解することができる。

- ①この活動を通じを参加して、日本と中国の古代間の交流歴史を了解でき、そのうえ、日本と中国の伝統文化を比較します。
- ②日本で生活したら、日本の生活と文化を体験できたり、日本人の精神を学ぶことができます。
- ③半年の日本生活を通じて、日本の文化と歴史、経済や生活習慣などを知ることができます。
- ④この活動は日本へ行って、さまざまな日本伝統文化を体験して、日本をもっと深く理解できます。
- ⑤日本の協定校へ半年間の短期留学へ行ければ、日本の文化を感じることができます。

(4) その他

- ①外国人との交流がもっと上手になります。
- ②日本での留学は私を夢実現にさらに一步近づくことができると信じます。
- ③半年間の短期留学は私の願いを遂行すると思います。
- ④貴校では専門分野の研究能力を高めることができます。
- ⑤半年は短いけど、日本人との付き合い方を学ぶことができます。
- ⑥アルバイトも鍛えることができます。
- ⑦日本語教員学科に入ったら、たくさんの専門の知識を学べます。
- ⑧私は私を信じて、貴校で勉強しているが、この半年間のきっと良いに発展します。
- ⑨貴校に行ければ、きっと大きな収穫があると信じています。

3.2 実質的な内容のない決心のみの「スローガン」的な表現が数多くあること。

(1) 私は一生懸命頑張る（具体的な計画がなく、宣言のみ）

「頑張る／努力する」を使った学生が134人の中、1回使った学生は40人、2回以上使った学生は8人、合わせて48人がいる。全体の36%を占めた。具体的には下のように表現される。

- ①私は日本に行けたら、一生懸命がんばって勉強します。
- ②日本へ行けたら、必ずに日本語を一生懸命勉強し、日本の文化もぜひ頑張ります。
- ③私は自分自身の自信がある。一生懸命頑張って勉強します。
- ④日本語を勉強しても、観光管理を勉強しても、どちらでも私も一生懸命頑張ります。
- ⑤もし僕が短期留学へいきたら、できれば多くの活動に参加します。まずは日本の習慣と風俗になれるために努力します。そして、茶道と書道の研修を一生懸命します。日本語がもっと上手になりたいから、日本語の勉強も頑張ります。

(2) その他

以下のようなスローガン的またはスローガンに近い中国式表現を使った学生が134人の中、1回使った学生は38人、2回以上使った学生は16人、合わせて54人がいる。全体の40%を占めた。

- ①今中国は高度経済成長にとともに、たくさんの人が日本へに旅行です。国際観光の前途は光明です。
- ②珍しい思い出を収穫します。
- ③自分の将来をもっと多くの選択を作りたいという考えもあります。
- ④一面は未来の仕事のあらゆる便宜を与えます。私の履歴書も豊富になりました。そうして、日

本の旅のことはいい思い出になるです。私の自分の経験と見聞も増えます。

⑤帰国後、両国の友好のために努力します。

⑥私はいろいろな困難があると思います。しかし、いずれにしても、私はぜひ勇気を出して困難に向き合うべきだ。

⑦その間に、自分の日本語能力をだんだん進歩できる上に、情操を陶冶できます。

⑧これらの芸術をマスタアしたら、帰国の後、ぜひ素晴らしい日本の伝統文化を周りの人に伝えます。

⑨ですから、心からこの機会を私にくださいます！ きっと、大切にします！ よろしくお願ひします！

4. 考察

4.1 「留学を通して、〇〇ができる」という表現が多い要因について

「申請理由」で「留学を通して、〇〇ができる」という表現を134人のうち66人が使っていることから、これは一般的傾向と見ていいだろう。これらに共通するのは、「留学を通して、日本語が上手になれる。」「日本文化を知る・理解することができる。」「視野を広め、生活能力が鍛えられる」など、今後なすべき努力や自らの能力を度外視した楽観的な表現であった。つまり、留学理由として、「留学を通して、〇〇ができるから、私は留学したい」のである。これに対して、日本人が書く申請理由ならば、「留学を通して、〇〇をしたい。」あるいは、「留学を通して、〇〇の目標に達成したい」と書くのが一般的だろう。

「〇〇をしたい」というのは、外国に行って、意図的に何かをして、ある状態や結果を得たいということである。これに対して、「〇〇ができる」というのは、具体的な行動は別にして、結果として能力がある、成績などが優れることである⁹⁾。

それでは、中国の学生がこのような表現を使う本心は何か。その可能性として二つ考えられる。一つは単なる中国語と日本語の表現の違いで、考え方は同じ場合である。もう一つは文字通りに、「留学さえすれば、〇〇ができる」ということを前提に、中国人が留学の学習効果と自分の能力に対して楽観的に考えている場合である。つまり、日本に行って、これらの能力を身につける「可能性がある」のではなく、「能力そのもの」が身につくのである。

この仮説をもとにインターネット¹⁰⁾を利用してアンケートをとり、定量調査を行った。以下の設問は中国語で書かれており、調査対象は不特定多数の一般中国人である。

設問：

問題1 「あなたは日本へ留学したいと考えています。申請理由を書く時、どの表現を使いますか。

1 留学を通して、日本語が上手になれるし、日本の伝統文化を知ることができる。(〇〇ができる型)

2 留学を通して、日本語能力を高めたいし、日本の伝統文化などにも接したい。(〇〇たい型)

問題2 (問題1で1を選んだ人のみ回答してください)「〇〇れる」「できる」についてどう思いますか。

1 日本語の環境にいるから、自然に日本語が上手になれる。そして、回りはすべて日本人、日本の物事だから、自然に日本の文化を知ることができる。

2 日本に行ってから、できれば多くの日本人と付き合ったり、できるだけ日本語を話したりすることをを通して、日本語を高めるという目的を達成したい。また、日本にいるから、日本の伝統文化に接するチャンスが多くなり、自分の積極的な行動を通して日本の伝統文化を知るという目的を達成したい。

2016年9月17日時点で436人から回答を得たが、結果からみると、「留学を通して、自分の努力によって〇〇の目標に達成したい」と思いながらも、「留学を通して、〇〇ができる」と表現する単なる中日の表現の違いから出たと思われるものが47.25%である。一方、「留学に行ったら、自然に〇〇ができるようになる」と思う人は20.1%に達し、5人に一人の割合であった。

「〇〇できる型」を使った割合が、「留学志望書（作文）」では49%、アンケートでも47.3%と非常に近い数字がでた。このことから、「〇〇できる型」を使った学生の中の約20%は留学に対して楽観的に捉えていると推定できる。

中国人は「自信過剰」や「根拠のない自信を持つ」と批判されて¹¹⁾久しいが、これにはメンツの問題や中国人の性格、そして教育など社会環境の原因が考えられる。このような性格上の特徴はいかに楽観的な中国式考え方に影響しているのかは、社会学的にも非常に興味深いことだが、本稿では詳述はせず、今後の課題としたい。今回の調査結果に限ってみれば、学生の書いた「志望理由書」には、その楽観的な中国式考え方が確実に反映されていると考える。

4.2 「スローガン」的な表現を好む要因について

「留学志望書」の「計画」欄では、「私は一生懸命頑張る」といった類の宣言的な表現が目立ち、さらに、「留学後の計画」では、「帰国後、両国の友好のために努力する」など、実質的な内容のない決心のみの「スローガン」的な表現が数多く書かれている。なぜ学生が「スローガン」的な表現を好むかについて、社会的原因、中国的事情、そして教育的原因の三つの面から分析してみたい。

(1) 社会的原因：日常生活の中にスローガンが溢れている

中国は世界一スローガンが好きな国だと言われている。昔から中国では様々なスローガンがある。1949年中華人民共和国が建国されて以来、自らの方針や政策を国民に周知させ、それに従わせるために打ち出したスローガンを例にしてみると、毛沢東時代の「一切の反動派を打倒せよ」（打倒一切反動派！）、鄧小平時代の「改革開放を大いに進めよう」（大力推進改革開放）、江沢民時代の「中華を振興せよ」（振興中華）、胡錦濤時代の「協調社会を建設せよ」（構建和協社会）、及び現役の習近平主席が提唱する「中国の夢」（中国夢）など、いつの時代にも溢れている。また、学校では「よく勉強し、日々向上する」（好好学习、天天向上）、「現代化に向け、世界に向け、未来に向けて」（面向現代化、面向世界、面向未来）、「祖国の四つの現代化建設を実現するために努力する」（為實現祖國的四個現代化建設而努力）など、励ましのスローガンで校舎の壁は埋め尽くされている。このように、中国の若者たちは生まれた時から、街角や学校の校内のスローガンに囲まれて育てられる。

子供の頃から大量のスローガンを暗唱させられた学生は、無意識のうちに作文にスローガン的な言葉を使ってしまう。日本語を学ぶ者は将来必ず「中日友好のために貢献」する、また学生としてはとりあえず「頑張る」というスローガンを唱える。しかし、どうやって中日友好のために貢献できる人になるのか、どうやって頑張るのかはあまり考えないのが現実である。

(2) 中国的事情：スローガンと実際の行動が合致しなくても厳しく追及されない

スローガンに囲まれている中国人ではあるが、必ずしもその内容を信じているとは言えないし、必ずしもスローガンに沿って行動するわけでもない。さらに、スローガンと実際の行動が合わなくても厳しく追及されることもない。中国では、例えば約束を守らない人が多いことを見ても分かるように、できなくても「ウソつき」と言われる心配はない。大きな問題さえ起らなければ、咎められないし、告発されることもない。ある意味では、スローガンは単なるポーズに過ぎない。

このような環境の中で育ってきた学生が書いた決意表明のような計画は必ずしも実行されるものと

は限らない。とりあえず「留学に行ける」ようにきれいごとを言うが、その後のことは後で考えればよいと思う人が少なくない。

(3) 教育的原因：スローガンの表現が評価される

中国では、子供の頃からの教育で大言壮語が評価されるという教育的原因もあると思われる。日本の子供は将来、野球選手やサッカー選手、大工さん、運転士、食べ物屋さん、幼稚園の先生になりたいとよく言うが¹²⁾、中国の子供は将来宇宙飛行士や科学者、官僚、管理職、警察官、医者などになりたいという比較的大きな夢を持っている。その夢が実現できるかどうかは別にして、親はその夢を聞くと、とりあえず安心して喜ぶ。学校では、試験前に「高い点数を取る自信があるか？」と先生に聞かれると、学力が低い生徒を含め、全員が声をあげて一斉に「あります」と答える場面もしばしば見られる。つまり、実情は別にして、目標だけ大きく設定するのが中国教育の特徴と言える。

また、中国の作文教育の影響も大きいと思われる。中国の受験勉強で、小学校、中学校の作文のパターンはモノトーンなものが好まれる。たとえば、親の愛、美しい春／秋、私が一番好きな〇〇、中国の伝統的祝日などのテーマを変えずに、建国以来数十年も続けて学生に書かせている。一見、学生の身の回りのことのように思われるが、学生の興味があることとは限らない。さらに、モデル文や万能通用の作文パターンなどの書籍が数多くある。たとえば、小学生向けの作文参考書¹³⁾では、母の愛を描く時、以下のような結語のところのモデル文がある。「母の愛は偉大です。母の愛は無私です。母の愛は至れり尽くせりです。母の愛には深く感心させられます。」「この世の母親はみんな子供の出世を望んでいます。私たちはもっと頑張って、母の愛に恩返ししなければなりません。」このようなモデル文を模倣して書けば、高い点数が取れないにしても、不合格にはならない。加えて、小学校から、美しい語彙の暗記と、文章の抜粋作業が国語の教育に要求されているので、所謂美文がよく作文に転用されている。そのため、中国人の学生が書いた文章は、美辞麗句が多用されていて、実質的なものがない、と国外でよく批判されることとなる。

ここまで考察してきた社会的原因、中国的事情、教育的原因の複合的結果として、「留学志望書」に「違和感」のある表現が多用されるのではないと思われる。留学中の計画や留学後の計画は「帰国後、両国の友好のために努力します」、「今回の機会を借りて視野を開拓します。」など、夢は大きいのだが、どのように努力するのか、どのように視野を開拓するのか全く触れられず、スローガンと美辞麗句ばかりだ。学生たちは、自分の現状や能力を度外視したタテマエを書いて満足してしまうのではないと思われる。

5. まとめ

本稿では、母語による「負の移転」として「中国式考え方による影響」を具体的に調査、考察してきた。その手がかりとして、訂正しようとしても手のつけようがないと感じる「違和感」のある表現を、中国人学生が書いた「留学志望書（作文）」の中から抽出した。明らかに「違和感」を覚えた点は次の2点であった。一つは、「申請理由」で「留学を通して、〇〇ができる」という表現が多数見られること。もう一つは「留学後の計画」で「一生懸命頑張る」という実質的な内容のない決心のみの「スローガン」的な表現が数多くあること。

前者については、サンプルを学生の作文だけでなく、インターネット上でのアンケート調査を加えた。その結果、約5割のサンプルに見られた楽観的表現については、中日の言語表現の違いから出たものが約3割ある一方、「留学に行ったら、自然に〇〇ができるようになる」という自らの能力に対する過信となすべき努力を過小に考える考え方の違いが約2割あることがわかった。

後者については、①日常生活の中にスローガンが溢れている社会的原因と、②スローガンと実際の

行動が合わなくても厳しく追及されないという中国的事情、③スローガンの表現が評価されており、小学校から美辞麗句が作文に多用されるという教育的原因の3つの観点から考察した。

また、これまで論じてきた「違和感」を単なる日本語教育上の言葉の問題とは捉えるべきではないと考える。「中国留学帰国就職藍皮書 2015」¹⁴⁾によると、1978年から2015年まで、外国へ留学する中国人の人数は404.21万人に達し、年平均増加率は19.06%である。2005年は11.85万人の留学生だったが、十年後の2015年になると、52.37万人にまで増加した。その背景には、中国経済の発展に伴い、家庭に経済的余裕が生じたことと、中国の親と学生本人が留学に対してもつ期待が非常に大きいということがある。しかしながら、アメリカのアイビー・リーグ (Ivy League) 2010-2015年の統計¹⁴⁾によると、アメリカでは外国人学部生の採用率は全体的に下がる傾向が見られる。この傾向はアメリカのみならず、ほかの国の有名大学にも見られる。その原因として、近年しばしば報道されている留学生の質¹⁵⁾を挙げることができるだろう。

留学に出るとき、親は子に大きな期待を抱き、子は「〇〇できる」という自信に満ち溢れ大きなスローガンを掲げて旅立つ。「留学志望書」と実力、現実との間に乖離があれば、そしてそれが大きければ大きい程、期待は大きな失望にかわり、受け入れる側にも失望をもたらすだろう。

本稿の考察結果からは、「留学志望書」や関連する文章を指導する際、担当教員はたんに、語彙や文法の間違いを指摘するだけではなく、中国と日本やアメリカなど留学先の考え方の違いも考慮に入れて指導すべきだという大きな課題も見えてくる。これまでの中日関係では「留学志望書」は逐語訳で十分であったかもしれない。しかし、これからの時代、実力を度外視した楽観性は現地で受け入れられないであろうし、内実の伴わないスローガンが評価されると楽観することも難しいだろう。若者の作文に感じた「違和感」は、次世代に対する期待と同時に、内実の伴った留学が求められている今日の時代的要請を反映しているのだと考えている。

なお、本研究では、アンケートに答えてくれた人の「自信」とそれを支える「楽観性」が何に由来しているのか（定性調査）については考察されていないが、今後の課題としたい。

〔キーワード〕 中国式考え方 中国人日本語学習者 志望理由書 スローガン

（本研究は「福建省中青年教師教育科研項目」の助成を受けたものである。項目番号：JAS150784）

注

- 1) 『詳説 第二言語習得研究 ― 理論から研究法まで』白畑知彦、若林茂則、村野井仁共著 2010年7月 研究社
- 2) 「从日语名词使用看母语干涉－以中级日语学习者的作文误用例为考察」趙曉傑 2014年第27卷第15期 湖北函授大学学报
- 3) 「论日语写作中词汇层面的母语负迁移现象及教学策略」「论日语写作中语篇层面的母语负迁移现象及教学策略」方愛萍 2013年4月 泰山師範学院学报
- 4) 「中国語母語話者の日本語の意見文に用いられる文末表現：日本語話者・中国語話者の日本語意見文及び中国語意見文を比較して」野崎まり・岩崎裕久美 2013 神奈川大学言語研究
- 5) 「中国人日本語表現誤用の分析 ― 中国人学生の日本語作文を素材として」桜井明治 1986 長崎県立国際経済大学論集
- 6) 「浅谈制约日语专业学生写作能力提高的瓶颈及其对策」潘貴民・田少郁 2008年9月 陕西教育
- 7) 「大学日语作文共性问题探析」王秋菊・石晶・多田敬司 2002年5月 遼寧師範大学学报

- 8) 曹大峰『基礎日語 写作教程 1』高等教育出版社（2011 年）1～35 頁参照。
- 9) 『デジタル大辞泉』によると、「する」というのは、意図的にある事・動作・行為などを行う。あるいは、ある状態や結果になるような動作・行為をいう。一方、「できる」というのは、能力や可能性がある、人格・能力・成績などがすぐれている、結果としてそうするように生まれつくなどの意味を持つ。
『デジタル大辞泉』は、小学館提供の『デジタル大辞泉』を搭載し、約 28 万 4400 項目（2016 年 9 月時点）を収録している。
する：<http://dictionary.goo.ne.jp/jn/120514/meaning/m0u/>
できる：<http://dictionary.goo.ne.jp/jn/151118/meaning/m0u/>
- 10) 「問巻星」（アンケート調査サイト）<https://sojump.com/jq/8730735.aspx>
- 11) 「中国人男性の性格と特徴」<http://www.togenkyo.net/modules/chinese/43.html>
- 12) 第一生命（保険株式会社）が毎年行っている「第一生命夏休みこどもミニ作文コンクールアンケート」—「大人になったらなりたいものベスト 10」による。
<http://event.dai-ichi-life.co.jp/campaign/minisaku/otona.html>
- 13) 万志勇『黄冈小状元 同步作文（三年級・下）』龍門書局（2009 年）75 頁参照。
- 14) 「八割の留学生は帰国就職にする」（中国教育部留学服務中心）
http://www.moe.gov.cn/jyb_xwfb/xw_fbh/moe_2069/xwfbh_2016n/xwfb_160325/160325_mtbd01/201603/t20160329_235747.html
- 15) 「日本への留学生 30 万人計画が招く深刻な“質”の低下」（DIAMOND online）
<http://diamond.jp/articles/-/102584>

参考文献

- 鄒玲（2012），「中国人留学生の使う日本語について — 母国語（中国語）の影響 —」，『平安女学院大学研究年報第 13 号』，pp.29-40
- 陳岩（2007），「談汉语母语日语学习者常见的误用 — 以母语及本国文化干扰为例」，『日語學習与研究』，pp.40-45
- 市川保子（1997），『日本語誤用例文小辞典』，凡人社
- 石麗儀（2013），「避免初中生作文空洞的教学策略探讨」，『閱讀写作』，pp.166-167
- SOHU ホームページ「搜狐网点击今日 925 期。2012. 为什么我们如此热衷于喊口号？」<http://sohu.com/s2012/dianji-925/>,2016.7.23

Chinese thinking which been showed
in the Chinese students' article
“Application for study abroad”

— Take Xiamen University Tan KahKee College Japanese language students
as the object of the research —

YAN, Ling

Take Xiamen University Tan KahKee College Japanese language students' article “Application for study abroad” as the object of the research, to carry on the investigation about the Chinese expression, and we analysis the reasons for the expression style. We got below reasons: first, in the reason for the study abroad, all students always use the expression such as “I can be ... by study abroad”, we do a questionnaire survey, then we find that it is not only because of the difference between the Chinese and Japanese language expression, but also because about 20% of the students have a groundless beautiful illusion for study abroad. And the second, in the plan for the study abroad, most of the students only show the willing to hard study, but no Substantive plan. This phenomenon is due to a variety of reasons, such as society circumstance of loving yelling slogans, Chinese conditions about slogans and practice always falling apart, education model of students' loving use beautiful words and sentences which from the very beginning study.